あなたと市政をむすぶ

広報 No.158

かんおんじ

2018／平成30年 **12** December

特集 災害から学ぶ

目　次

○年末年始の業務のお知らせ……8
○平成31年度の市民税・県民税の主な改正点……11
○市職員の給与等の状況をお知らせします……12・13
○平成31年成人式のご案内……18

【表紙】たんぽぽ保育園で行われた芋掘り（関連記事21ページ）

洪水、土砂崩れ、地震・・・そのとき、あなたはどこにいるか

特集 災害から学ぶ

平成30年は全国各地で自然災害が相次ぎました。過去の災害から学び、備えることが、私たち一人ひとりに求められています。

平成16年の災害を振り返る

自然災害が少ない地域といわれる香川県。災害を身近なことに捉えられない人もいるかもしれません。これらの写真は平成16年夏の豪雨・台風が本市にもたらした災害の様子です。当時市町合併前だった各地で甚大な被害が起き、尊い命が犠牲になりました。

旧観音寺市では、台風接近に伴う高潮と大潮の満潮が重なり、室本港・観音寺港周辺で住宅が浸水し、道路や田畑が冠水しました。

旧大野原町では、濁流や土砂で住宅が全壊・半壊し、停電が発生、農道やため池などが崩壊。

旧豊浜町では、河川の決壊・氾濫による住宅浸水や山林で土石流が発生、ナシやミカン等の樹園地の約半分が流出しました。

今年は全国各地で自然災害が相次ぎ、本市でもいつ同じような災害が起きてもおかしくありません。過去を忘れず、今後起こりうる災害を予見し、正しく備えておく必要があります。大切な命を守るために、今日から考えていきませんか。

❶河内池の北側斜面が崩落し、土砂などが池に流入（豊浜町和田）❷豪雨によって流された農道(豊浜町和田）❸高尾山が崩れ、水谷川から流れ込んだ大量の土砂が高尾観音堂前に堆積（大野原町萩原）❹吉田川の護岸崩落により豊浜町和田の市道斜面が崩落 ❺琴弾公園内の道路が冠水、園内の多くの樹木が塩害で枯れた ❻深さ2メートル以上ある銭形砂絵が浸水

平成 30 年に災害をもたらした気象・地震

（気象庁ホームページより）

1月～2月	強い冬型の気圧配置による大雪・暴風雪等
4月	島根県西部地震（最大震度５強・M6.1）
6月	大阪府北部地震（最大震度６弱・M6.1）
6月～7月	平成30年7月豪雨
9月	北海道胆振（いぶり）東部地震（最大震度７・M6.7）
	台風21号による暴風・高潮等
9月～10月	台風24号による暴風・高潮等

尊い命を失われた方に深く哀悼の意を表しますとともに、被害に遭われた皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

「どんなことが起きるだろう」と想像してみよう

国立大学法人 香川大学
四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構　特命教授
松本秀應（ひでお）さん（三本松町出身）

近年の災害と南海トラフ地震

今年は自然災害が多い一年でした。気象庁によると、年間降水量には変化がないのに、1時間に50ミリを超える激しい雨が降る回数が増えているそうです。降るときは降り、降らないときは降らないといった極端な降り方になってきていることから、豪雨や渇水などの災害が起きやすい気候になっています。

南海トラフを震源とする大地震は、90年～150年ごとに起こるといわれており、前回は昭和21年（1946年）に昭和南海地震が起きました。そのため30年以内に70～80％の確率で起きると想定されていますが、地震の発生間隔にはばらつきがあり、いつ起きるか分かりません。実際、熊本地震が起きる確率は1％未満といわれていました。

津波が来るまでに時間がある から大丈夫？

観音寺市は平野部が多いですが、これは川から砂が運ばれてできたためです。砂地は液状化が起きやすく、地震後すぐに液状化現象が起きるでしょう。マンホールが浮き上がり、道路が陥没して車は走れません。津波が来る前に激しい揺れで堤防が壊れ、海や川の水で街中が浸水する可能性もあります。直ちに逃げる必要があります。

備えていないと、逃げることすらできない

もし、今地震が起きたら、その場から逃げられますか？周囲の固定していないものはすべて飛び、倒れると思ってください。東日本大震災ではブラウン管テレビが飛んできたそうです。家具の向きを変え、固定し、出入り口付近に倒れないようにすること。揺れに耐えても、外へ出られなければ逃げられません。逃げ遅れても市や消防の人が助けに来てくれると思っていませんか？職員や救急車の数は限られています。隣近所で助け合える関係を日ごろからつくっておくことが大切です。

また、避難所に行っても、毛布や食料などが用意されているとは限りません。手ぶらで行けば良いわけではないのです。乾電池は借りられても、メガネや薬は他人からは借りられないし、アレルギーがあれば、避難所の食事が食べられないかもしれません。自分専用のものは自分で備えなければなりません。

まずはハザードマップを確認

防災マップの置き場所を決め、家族でハザードマップを確認しましょう。家、職場、学校、スーパーなど、自分が生活する上で利用しそうな場所の被害状況、避難経路はいくつあるか確認してください。また、子どもが学校で被災して迎えに行かないといけない場合は、どの経路で迎えに行くかなど、細かく想像することが大切です。

過去の災害から学べ

東日本大震災の被災者が「被害想定の映像どおりの状況になった」と話していました。東日本をはじめ、各地の惨状を知っているのに何もしないで良いのでしょうか。備えて損をすることはありません。平成16年の災害の経験も生かし、ぜひ備えをしてほしいと思います。被災された方々の貴重な情報を必ず来る災害に生かすことが、私たちの責務ではないでしょうか。

災害時どう動く

地震が発生したときの行動の流れです。洪水、土砂災害、浸水被害時の行動は「総合防災マップ」で確認してください。

私たちの命を守る
安全行動 1－2－3

地震発生

土砂崩れ
液状化
浸水
津波

❶ 身を守り、揺れに耐える（最長約 3 分）

安全行動 1－2－3 を取りましょう。

揺れが収まったら、

❷ 直ちに逃げる（最短10分以内で浸水深30cm到達）

ガスの元栓を閉め、ブレーカーを落としたら必要な物を持って外へ出ましょう。渋滞になり逃げ遅れる可能性があるため、できるだけ車よりも徒歩で逃げましょう。

❸ 周りの人を助ける

今すぐ逃げるよう、隣近所で声をかけ合ってください。車いすの人、お年寄りなどを手助けしてください。

❹ 避難する

近くの「緊急避難場所」へ。避難場所一覧は「総合防災マップ」に掲載しています。日ごろから家族で避難場所と連絡方法を確認しておきましょう。

普段から気を付けて

○車の燃料は切らさない
車には冷暖房やテレビ・ラジオがあり、情報源になり、部屋や発電機として代用できます

○お釣りのいらない備えを
停電でＡＴＭやレジが使えないかもしれません

○薬やメガネなど、ないと困るものはすぐ持ち出せるように

災害に備える

大震災をイメージできる

県民向けＤＶＤ「地震発生、そのとき…」

大震災時の県内各地の状況をコンピューターグラフィックスで再現した臨場感のある映像です。県ホームページで視聴できるほか、市危機管理課でＤＶＤの貸し出しをしています（映像時間約19分）。

この表示って、どういう意味？

海抜：平均海面からの陸地の高さ

地震・津波により、観音寺港では**海面が3.2メートル**の高さになると想定されています（津波の高さではありません）。もし堤防が決壊したら、この地域の場合は**※90センチメートル浸水**する可能性があります。自宅周辺等の表示を確認し、備えをしてください。
※3.2メートル－2.3メートル＝90センチメートル

お宅にありますか？
家族で確認しましょう！
総合防災マップ

緊急避難場所や洪水、土砂、地震などの災害への備え方、前兆現象、避難行動、各地の被害予想（ハザードマップ）などを掲載。市ホームページにも掲載しています。

12月から防災ラジオの導通確認放送を行います

一世帯に１台
（無料で貸し出し）
防災ラジオ

警報発表時や災害時、防災ラジオによる情報発信を行っています。確実な情報伝達を行うため、**12月１日から毎日午後６時に電波導通確認のチャイム放送をします。**緊急時、情報を確実に伝えるために必要な放送です。ご理解とご協力をお願いします。

問 危機管理課 ☎２３－３９４０

自主防災が大切な理由

災害発生後、救助に向かえる消防職員、市職員の人数には限りがあります。まずは自分の命は自分で守るという意識を持ち、備えをしましょう。

観音寺市の人口に対する消防・市職員数など

救急車の数	3台	60,561人※1
消防職員の数	59人※2	60,561人
市職員の数	470人※3	60,561人
避難所の数	68ヵ所※4	60,561人

※１平成30年11月１日現在の住民基本台帳による
※２平成30年４月１日現在
※３平成30年７月１日現在の動員可能な職員数
避難所運営に従事する人数ではありません。
※４地震津波時の避難所数

三観広域行政組合南消防署 消防士長
山口 和孝さん（木之郷町）

自分だけは大丈夫と思わないで、避難のハードルを下げてほしい

西日本豪雨により近隣自治体が大きな被害を受け、三観広域消防本部は広島県と愛媛県に延べ35人の職員を派遣しました。私も広島県へ出動し、土石流による行方不明者の捜索を行いました。

そこは山間地で、大雨により上流の砂防ダムが崩れ、10トン程もある石が流れて民家を直撃し、家屋が崩壊していました。2階部分は残っているのに1階部分は流されていたり、太さ5、6センチの角材が屋根を突き破っていたりするのを見て、勢いのすごさを感じました。ありとあらゆるものが流されて一カ所に集積しており、活動は想像よりも困難なものでした。

災害で亡くなった人の多くは、逃げ遅れて家屋の中に取り残されてしまったことが原因でした。発災後72時間を過ぎると生存率は低くなります。自分だけは大丈夫と思わずに避難のハードルを下げてください。山や川、海、どこに近いかで被害状況は変わります。災害の前兆について勉強しておくことが大切です。

天災は忘れたころにやってくるといわれていますが、近年は忘れないうちに次々とやってきています。自分もいつ被災するか分からないと考え、日常的に防災を意識してほしいと思います。

かがわ自主ぼう連絡協議会理事／防災士
安藤 正則さん（粟井町）

地域の助け合いなしには、命は守れない

有事の際は、まず自分の命は自分で守り、次に家族や近所の人を守ることが大切です。救助が来るまでに時間がかかり、数日は地域住民だけで何とかやっていかないといけないかもしれません。そのために、地域の自主防災組織が必要です。「あの家は車いすの人がいる、担架が必要な人がいる」など、地域の情報を日ごろから持っていれば、有効に対応できます。一人に役割を集中させるのでなく、組織で役割分担しておくと、被災時に無事だった人たちで、いち早く共助活動に取り組むことができます。

粟井地区には７つの自主防災組織があり、地区全体の防災訓練を毎年実施しています。同じことの繰り返しでも、訓練することで住民の意識が高まります。意識を持っていれば緊急時に良い判断ができるはずです。市内には１８５※の自主防災組織がありますが、取り組みに差があるようです。かがわ自主ぼう連絡協議会で活動のお手伝いをしているので市危機管理課を通じて相談してください。

地域の助け合いなしには、命は守れません。「地域のために自分も何とかしたい」という意識を持ち、減災のために、自分にできることから始めてもらいたいと思います。

※ 平成30年11月１日現在

三観広域行政組合 職員／防災士
岡村 静香さん

女性が関心を持つことで、防災意識は高まります

被災後3日目くらいから「温かいものが食べたい」「野菜が食べたい」という声が出てくるといわれます。自炊できる方法を知っておくことは大切な備えの一つです。冷蔵庫は備蓄庫なので、しっかり固定しておきましょう。

パッククッキングは、災害食を買い揃えなくても、ライフラインがストップしても、普段食べている食材や冷蔵庫の備蓄食材を温かく衛生的に調理できる方法です。簡単なので一度試してみてください。

防災は男性主導になりがちですが、女性が関心を持つことにより意識が高まります。女性は、家庭や職場、地域でさまざまな役割を担っているので、災害時に何を優先したらいいのか混乱する傾向があります。優先順位を付けて役割ごとにシュミレーションし、備えることが必要です。

例えば私は、普段から家族に防災グッズが入ったポーチを渡し、もし私が職場で被災しても、家族は当面大丈夫だと安心して冷静に行動できるよう備えています。皆さんも、自分に合った備えをして欲しいと思います。

災害時は「自助」が大切です。備えていれば、支援が必要な人に物資を回し、助け合うことができます。日ごろから自分と家族の命を守り、命をつなぐ準備をしておきましょう。

ポリ袋で料理ができる！
パッククッキングでご飯を炊いてみよう

パッククッキングに必要なもの
- ○食材
- ○お湯を張った鍋
- ○カセットコンロ
- ○ポリ袋

※ポリ袋は、熱に強いもの（高密度ポリエチレン製）を使用しよう

材料（1人分）
米60グラム、水100ミリリットル

作り方
①袋に米と水を入れて10分浸水させる
②袋の空気を抜いて、上の方で縛る
③袋を湯に入れて30分加熱する

●袋を、お皿や容器にかぶせて食べると洗い物が不要です

市内各地の防災の取り組み 10月～11月にかけて、各地で防災訓練が行われました。

10月21日（日）豊田地区防災訓練に約280人が参加

10月28日（日）大規模地震を想定し、消防団、海防団、自衛隊や消防、警察、日本赤十字社、地元自主防災組織など各関係機関による総合防災訓練を県と合同で実施

11月１日（木）市内の学校や事業所、施設等で一斉にシェイクアウト訓練を実施。阪大微生物病研究会では約790人が訓練に参加した

11月１日（木）市役所で南海トラフ巨大地震の発生を想定した職員登庁訓練を実施。道路や橋などの寸断を前提に約250人が徒歩や自転車など自動車以外の手段で登庁。災害対策本部設置の訓練も実施

自然現象（地震・台風など）を避けることはできませんが、事前の備えで災害を減らすことができます。
一人ひとりが自分にできる備えをして、大切な命を守りましょう。